

場所： 幕張メッセ国際会議場 101B 室

日時： 2015 年 5 月 26 日（火） 18 時 15 分—20 時 15 分

定足数（8 名）確認：

新旧理事 出席者 松田、澤田、中澤、川嶋、杉浦、宍戸、上野、鈴木、藤田、矢吹、縫村、青木、兒玉。山岸、堀、大前 他、オブザーバー数名

理事会議題：

## 1. 2014 年度 事業および決算報告

<報告>

2014 年度に行った支部会の事業について報告した。従来から行っている調査、広報、および支部理事会のほか、2014 年度から始めた新しい普及事業として、サイエンスアゴラへのブース出展を行った。これらに関わる経費として、136,671 円の支出を行った。支部幹事 2 名による会計監査の結果、妥当な運営が行われたとの監査結果が報告された。

## 2. 2015/2016 年度運営組織について

<報告>

新支部理事・支部監事への以下の方の推薦があり、本人からの推薦承諾が得られた（上野）

氏名	E-mail	所属
松田 益義	matsuda@mtsnow.co.jp	(株)MTS 雪氷研究所
上野 健一	ueno.kenichi.fw@u.tsukuba.ac.jp	筑波大学
澤田 結基	y-sawada@fcu.ac.jp	福山市立大学
宍戸 真也	shishido.masaya.36@rtri.or.jp	(財) 鉄道総合技術研究所
川嶋 高志	kawashima@jwaf.jp	日本勤労者山岳連盟
鈴木 和良	skazu@jamstec.go.jp	JAMSTEC
藤田 秀二	sfujita@nipr.ac.jp	国立極地研究所
小西 啓之	konishi@cc.osaka-kyoiku.ac.jp	大阪教育大
矢吹 裕伯	yabuki@jamstec.go.jp	JAMSTEC
縫村 崇行	tnuimura@cis.ac.jp	千葉科学大学
青木 輝夫	teaoki@mri-jma.go.jp	気象研究所
兒玉 裕二	kodama.yuji@nipr.ac.jp	国立極地研究所
山岸 陽一	yamagisi@me.kanagawa-it.ac.jp	神奈川工科大学
堀 雅裕	hori.masahiro@jaxa.jp	JAXA
大前 宏和	ohmae.jssi@sentencia.co.jp	(株)センティア
※監事		
太田 岳史	takeshi@agr.nagoya-u.ac.jp	名古屋大学
隅谷 大作	sumitani@seikenn.co.jp	(株) 精研

### <審議事項>

上記に関して新支部理事への承認が行われた。さらに、支部会運営に関する主担当が以下のように決定された。

支部長： 松田 幹事長： 上野

総務： 上野（委員長）、兒玉（本部対応）、大前（支部会員対応）

会計： 鈴木（委員長）、澤田（本部財務補佐）

広報： 縫村（ホームページ、名簿管理）、川嶋、堀

事業： 宍戸（委員長、アゴラ）、小西（西日本講演会）、矢吹、青木（全国大会）、山岸（講演会など）

顧問に関して、以下の方の候補者の承認を行い、支部長から依頼を行う事となった。

渡辺 興亜、藤井 理行、中尾 正義、成田 秀明、生頼 孝博、中村 勉、嶋田 潔、楠 宏、安仁屋政武、伏見碩二、東郷 栄次郎、安間 荘、成瀬 廉二（敬称略）

### 3. 2015 年度事業計画・予算計画

今年度の事業計画および予算（配布資料）に関して、以下の内容が本部の理事会および通常総会に提出されており、これを了承した。

項目	内容	予算措置の有無	主要担当者
調査	関東以西山岳雪質調査	無し	
	関東以西大雪災害の情報調査	有り	松田、上野、矢吹、森
研修会等	関東以西 GIS 研修会	有り	縫村
普及・啓発	関東以西サイエンスアゴラへの出展	有り	宍戸
ホームページ、メーリングリストの運営		有り	縫村
2016 年度雪氷全国大会準備		有り	青木、矢吹、 松田、澤田、宍戸、堀
講演会の開催		有り	山岸、小西
支部会機関紙	ニュースレター発行	有り	
管理事項	関東以西支部総会（今回の千葉）		上野
	関東以西支部理事会（今回の千葉+2回）		上野

今年の本部からの支給予算額は、135,000 円(総予算額 165,000 円、うち 3 万円は見込まれる事業収入)で、内訳は、公益目的事業が 95,000 円（アゴラ、研修会など）、法人会計が 40,000 円（JpGU 会場費）に予定されている。2015 年度事業計画および予算案の提出に際して、本部からは次に指摘があったことが報告された。一講演会や研修会などは受益者負担が原則であること、支部事業の赤字分は会員の会費収入でまかなうため各支部の収支はマイナス 10 万円程度までにおさめてほしいことなど。**各事業の担当者は、今年度に想定される必要予算を算出し、会計担当は全体予算を早急に試算する。**不足分は本部に追加予算請求を試みる。

### 4. 支部内規の改定提案について

事務作業緩和のために、第 13 条 4 項の総会成立のための定足数規定を削除する事と、第 17 条にて、支部会員・理事間の連絡は、原則として E-mail とし、この代用として FAX を利用する事を明記したい旨、昨年度の理事会から発議があった。これに関して議論を行ったが、定足数削除は総会そのものの成立が危ぶまれる可能性があるとの意見が出され、今後も議論をしていく事と成った。主要な確認事項・意見を以下に列挙する。

- > 支部の内規変更は、雪氷学会の規約に沿ったものであれば支部で発議し、本部で承認する手順となる。
- > 他の支部では定足数を明記していない内規がある。
- > 定足数を満たすための委任状調査には多大な事務作業と経費が発生しており、今後、実施する場合は理事に仕事を依頼する事になる。
- > 定足数を無くすと、ごく少数の理事会参加メンバーで案件を承認する事が可能となり、総会の役目を果たさなくなる可能性がある。
- > 総会は支部会員の意見を反映させる大切な場であり、支部内規では総会を開催することが規定されている。
- > 実質の委任状回収率は低迷しており（今回は68通で、定足数77名に対して参加人数も考慮してぎりぎりであった）、万が一定足数を下回ると重要事項が決まらない可能性がある。

#### 5. 2016 全国大会の開催地、会場、費用、時期の概要について

松田支部長より、沖縄大会を念頭においた情報収集の説明があった。開催場所としては沖縄科学技術大学、琉球大学が候補として考えられ、万国律染館は懇親会会場として最適である。沖縄県東京事務所から誘致の話があり、情報交換を進めている。現地に対応いただける研究者として、琉球大学の山田・植村・木崎氏にもコンタクトをとっている。至急、準備委員会を立ち上げる必要がある。

#### 6. 2016 全国大会の実行委員会組織について

上野より、八戸大会では前年の今頃に実行委員会を立ち上げて動き出している事と、1、実行委員長、2、副委員長・幹事、3、総務・企画、4、会計、5、受付、6、プログラム編制（研究発表・セッション・分科会・各種会合）、7、会場、8、懇親会、9、公開講演会、10、技術展示、11、広告・協賛、12、雪氷楽会、13、ホームページ・登録システム、といった担当を派生する必要がある、という事前調査の報告があった。

準備委員会を立ち上げる事となり、青木（委員長）、矢吹（幹事）、松田、澤田、宍戸、堀氏らが立候補した。これらに、雪工学会からのメンバーを加え、7月中旬までに第一回会合を開き、日時・場所・実行委員の人選を行って支部理事会へ答申する事となった。秋の松本大会では、実行委員長および日時・場所の報告が必要となる。

総会議題：

出席者（理事会以外）： 高橋修平（会長）、大畑哲夫、森淳子

19時30分から総会を開催し、上記1－6に関する理事会報告と質疑を行った。その後、以下の2点に関して検討した。

#### 7. 非雪国での積雪調査プロジェクトに関して

松田氏より、上記プロジェクトの提案に関して以下の主旨説明があった。

主旨：今冬の大雪時に関東以西支部の学员が自宅で積雪深や積雪水量を観測したという情報は現時点では入っていません。たぶん計っていないのだと思います。おそらく習慣がないのだとおもいます。学会員の中にも雪密度を測定したことがない人がいます。有力会員ですらその大多数が自宅の庭やベランダに積もった雪の密度を計れるような個人用の密度サンプラーを持っていません。めったに雪が降らない地域では、積雪深や密度のような基本的雪情報が防災上大変重要です。大雪時には多数の会員だけでなく、一般市民からもこうした積雪深や雪密度のような基本情報が集まるように出来ないものかと感じます。小型、軽量、安価な潟湖キットも必要かと思えます。少しずつ改善できないかなと思います。

上記のプロジェクトの提案内容に関して以下のような議論を行った。

- > このようなデータは非常に貴重で、支部活動として実施する事は有意である。
- > 市民参加型の積雪調査として非常に期待される。測定手法をより勘弁なものにすると良い。
- > 学校などに依頼して調査を広域・連続的に実施できると良い。
- > 得られたデータが JAXA などの衛星検証にも資するとすばらしい。
- > 気象グループが模索している科研費応募の一部として組み入れると、資金獲得ができる可能性がある。

討議の結果、支部の一事業として推進する事が了承された。次のアクションとしてはサイエンスアゴラで観測依頼や説明を入れ、この冬に試験調査を開始すべく、プロジェクトを始動する。プロジェクトに参加希望者として、松田（責任者）・宍戸・上野・矢吹・森・堀氏らの名前が挙がった。プロジェクトのネーミングも考える必要がある。

#### 8. 支部賞の設置に関して

鈴木理事より、支部が出す若手向けの学術賞の創立提案があった。他の支部では同様の賞が既に存在し、い昨年度の支部理事会でも支部が推薦する学術賞が多数あってよいとの議論があった。これを踏まえて、鈴木氏がたたき台となる原案を考える事となった。